

「神に近づきなさい」

ヤコブ4：7～9

堀田修一 21・6・6

I 先行する神の恵み

本当は、罪深い私たちは、神に近づきたくても、自分の罪故に決して近づけない者でした。しかし、神の大きな愛と私たちの罪の罰を身代わりに完全に受けて下さった主の十字架の驚くべき恵みの故に、偉大な神に大胆に近づける道が開かれたのです！最高に素晴らしい神ご自身が「私に近づきなさい」と語り掛けておられるのです！神に近づけるのは、最高の恵みです！

II 「ですから、神に従い」：7。「神は、高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える」：6。

神の恵みに感謝し、神に従いたいものです。自分の力では神に従えない。ご聖霊の助けが必要。へりくだるとは、自分の弱さを認め神に従うことです。世の罪の楽しみではなく、健全な楽しみ恵みを下さる神に従うことを選び取る。神の愛と主の恵みと聖霊の交わりを感謝する心から出る神への服従です。このように神に従う私達に、神は恵みを与えられます。「ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい」：7。

- ① 神に従うとは、神に常に敵対する悪魔（悪に誘惑する者）に対抗することです。悪魔が実際に今も存在し、私たちが誘惑することを知る必要があります（Iペテ5：8）。※悪魔の存在を知った証し。
- ② 私たちが、へりくだって神に従おうとする時こそ悪魔は、多くの誘惑をし掛け、挑んできます。恵みの場である御言葉と祈りの時、礼拝から遠ざけようとします。苦しみの時は失望させ、神への不信の心を入れ、順調な時には、私たちが油断させ、高ぶらせます。悪魔は、私たちが恵みの源である神から離れさせようとします。今、コロナ禍の中で、悪魔から守られご自宅での礼拝が守られますように。

③ 悪魔は主を誘惑しました（マタ4：1～11）。しかし主は、御霊と御言葉によって勝利されました。悪魔に「対抗なさい」とは、自分の力で戦うことではありません。それなら負けてしまいます。悪魔に対抗するための神からの武具は、「信仰の大盾」（どんな時にも神を信頼する信仰）、「御霊の与える剣である神のみことば」、「互いの為に祈る祈り」（エペソ6：11～20）です。

④ 4：4で神を愛するか世の罪の友となるかを見ましたが、それは、神に従うか悪魔に従うかという事です。神に従い近づこうとする時、悪魔の妨害があることを覚え、目を覚まして祈りましょう。しかし、恐れ過ぎてはいけません。それも悪魔の罠です。なぜなら、神は、悪魔（神に造られた天使が墮落した存在、被造物）より、何倍も力ある創造主だからです。私たちが、油断せず、神の武具で悪魔に立ち向かうなら「平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます」（ローマ16：20）→「そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります」：7。悪魔は、二つの方法で私達を誘惑する事を覚えておきましょう。

A. 私達が、油断していると、悪魔は、色々な罪、悪に私達を誘惑します。そんな時に私達は、主イエスの様に御霊とみことばで対抗しましょう。※もし主とみことばの力がなければ私の人生はもっと悪の人生へ。

B. 私達が、神に罪を告白しても、まだ神に赦されていないと自分を責め過ぎる時、悪魔は、そこにつけこみ、ますます私達を責め、「おまえは、もう神に愛されていない、赦されない」と攻撃し、私達を落ち込ませようとします。そんな時は、悪魔が恐れている神のみことばで対抗しましょう→「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」Ⅰヨハネ1：9。「今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません」ローマ8：1。「私たちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私達を責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました」コロサイ2：13、14。

Ⅲ 神に近づく恵み

1. 「神に近づきなさい」：8。

- ① 旧約時代は、神に近づくことができたのは、祭司であり、色々ないけにえが必要であり、多くの聖なる規定がありました→レビ記。その意味→私たちの罪ゆえに、本当は神に近づく礼拝は簡単なことではない事と主の十字架のいけにえが、いかに必要、恵みかを指し示している。旧約聖書を読む事の大切さ。
- ② しかし、新約の時代は、贖いの子羊である主の血故に、主を信じる信仰を通して、誰でも神に近づけるようにして下さったのです（ヘブル4：16、7：19）。心から感謝！
- ③ 神に近づくとは。
 - i 自分の罪を認めてイエス様（神）を信じる。
 - ii 日々、神の前に静まり御言葉を読み神と交わる。
 - iii 毎主日、神に近づき神ご自身を喜び礼拝する。
 - iv どんな悩み、重荷がある時も、心から神に近づき祈る。
 - v 罪を告白し、神の喜ばれる聖く謙遜な生活ができるように祈る。
 - vi 何をしていても、心の中で主を思う（Ⅱテモ2：8）。
- ④ そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます」：8。何と素晴らしい御言葉でしょう！神に一步踏み出す毎に、神も私たちに一步踏み出し近づいて下さる。実は、神はいつも近くにいて下さるのです。それなのに、私たちの方が罪を犯し世的になり神を忘れ、遠ざかるのです。そんな私たちがいつも大胆に神に近づけるのは、神がまず私たちに近づいて、十字架の贖いによりその道を開いて下さったからです。神に近づく時、神の臨在に触れ、神からの愛、喜び、平安、力、識別力が与えられるのです。今、あなたは試練の中におられますか。失望しないで下さい。神が共におられます！

2. 「罪ある人たち」。

キリスト者もこの罪の世にあって絶えず道徳的汚れの誘惑を受け影響を受けます。ですから「手をきよめなさい」：8。旧約時代、儀式に携わる者は手を洗い（出30：19）、それは、汚れを除く象徴的行為でした。ですから、「手をきよめなさい」とは、具体的な罪の行為から離れる（捨てる）事を意味します。神は本気で祈るなら罪から離れる力を下さいます。※神が罪を示し悔い改めへ。

3. 「二心の人たち」。

キリスト者になっても心が、神と世、神と悪魔に分かれ二心になることがあります。神に近づく者にとり心の動機と願いは、命を懸けて愛して下さっている神ご自身を喜ぶ事であり、神をお喜ばせする事です（Ⅱコリ5：9）。その動機が分裂する時、心の清さが失われます。ですから「心を清めなさい」：8と言われます。聖い神は、私たちが、手も心も清くなり、神に似る事を喜ばれます。清い者を神は豊かに用いられます（Ⅱテモ2：21）。心を清くすることは、自分ではできません。主の血と御聖霊によりきよめて下さいと祈りましょう。

Ⅳ「嘆きなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい」：9。

この意味は、神から離れ、はかない罪、悪の楽しみ（笑い、喜び）、自分の罪を認め、真に嘆き、悲しむ、憂いに変えなさい。自分の罪を真に悲しみ、神に真に悔い改め、神に立ち返る人、神に近づく人は幸いです。その苦しみ、悲しみ、嘆きは無駄ではありません。神から離れていた自分を神に立ち返らせ近づかせる苦しみと悲しみとなり益となります。主は、私たちと共にいて、共に悲しみ苦しんで下さるお方です。「彼らが苦しむ時には、いつも主も苦しみ、…愛とあわれみによって、主は彼らを贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった」イザヤ63：9。※証し。足跡の詩。「悲しむ者は、幸いです。その人は慰められるからです」マタイ5：4。「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました」詩119：71。「神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせます」Ⅱコリント7：10。「私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は…あなたのすべてのみわざを語り告げましょう」詩73：28